

# 新年のご挨拶

若桜町長 上川 元張



新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年11月に、「若桜そば協議会」の主催により、「新蕎麦まつり」が町内で開催されました。当日は町内外から多くのそば好きが集まり、香り豊かな若桜の新そば



▲「第2回新蕎麦まつり」(屋内運動場)

ばを堪能し、用意された500食は完売となりました。昨年は、町内農業者のご協力により、耕作放棄地を活用してそばの栽培を拡げ、栽培方法の見直し等により収穫量も増え、近年にない豊作となりました。

そばで盛り上がった1年でしたが、もとは、2年前にそば職人を目指す地域おこし協力隊を公募したことからはじまった取組です。若桜の美味しいそばを食べられる常設の店が地元でできれば地域経済も潤うという地消地産の発想です。その協力隊の小濱雄史さんも町内での起業に向けて着々と準備を進めており、今年も新たな展開が期待できそうです。

さて、この一年の町政の動きを振り返ってみます。

2年前の能登半島地震では停電や断水が長期間に及び、復興が遅れる原因となりました。これを教訓に、災害対策の拠点となる

役場庁舎や水道施設の非常用電源を整備するとともに、指定避難所等への屋外用停電時照明の設置や簡易ベッド等備蓄品の整備を進めました。

公共交通の見直しを行い、デマンド便については利用料金を一律200円に引き下げ、台数を1台増の3台体制に増強するなど利便性の向上を図りました。あわせて、住民ドライバーを募集し、共助交通の池田全域への拡大と、若桜地区へのグリーンスローモビリティの導入の準備を進めました。日本交通高速バス鳥取―大阪間若桜経由便については、運賃助成の効果もあり、4月の運行開始以来70%台と好調な乗車率を維持しており、継続運行にしたいと思っています。また、若桜鉄道については、営業収益が減少する中、SL体験運転やグッズ販売等営業外収益の確保に力を入れ、令和6年度は3期連続の黒字決算となりました。



▲拡幅された町道吉川小学校線

集落を基盤とした農地や水路等の維持管理の体制づくりのため、国の交付金の受け皿となる集落の広域組織化を進めました。その結果、中山間地域等直接支払交付金制度では昨年度の22集落から32集落へ、多面的機能支払交付金制度では6集落から32集落へと取組が大きく拡がりました。耕作放棄地の拡大への歯止めと農業生産の継続が期待されます。NIPPONIAブランドで古民家ホテルを核としたまちづくりを全国で展開する㈱NOTEと7月に連携協定を締結し、若桜宿での事業がスタートしました。滞在型観光へのシフトにより地域への経済波及効果



が期待されます。セミナーやワークショップを開催し、まずは年度内に宿内の観光エリアビジョンを策定する予定です。駅周辺や重伝建エリアを中心に若桜地区の整備指針となる都市計画マスタープランの策定にも着手し、2ヶ年での策定を目指します。

観光面では、巳年の開運神社として江嶋神社が多くのお参拝客で賑わい、9月の弁天大祭では、宵宮のナイトウォークや境内での琵琶演奏などで盛り上がりました。また、2年目を迎えたデジタルスタンブラリー「若桜町よくばりロマン紀行」では、町内観光地を周遊して楽しむ方が増え、クーポンの利用も好調でした。観光に携わる地域おこし協力隊を6月から2名採用し、町の観光資源の魅力向上や情報発信などに活躍いただいています。

地産地消による地域経済の循環と町民参加のまちづくりを目的に、デジタル地域通貨の導入準備を進めました。これは、町内加盟店での買い物にのみ利用できるICカードを全町民に配布し、買い物の際のポイント付与のほか、町民の社会参加や行政施策へのご協力にもポイントを付与するなど、地元消費の拡大につなげるものです。令和8年3月の運

用開始に向けて、町商工会とも連携し、加盟店舗を増やし、多くの町民にご利用いただける環境を整えます。

国道29号津ノ井バイパスの広岡から西大路間の2.8kmについて、高架式での4車線化の事業化が決定し、地盤調査が始まりました。市内への通勤時間の短縮が期待されます。また、県道若桜下三河線の岩屋堂バイパス工事が順調に進捗し、トンネル部分がほぼ完成しました。令和8年中には供用開始が見込まれます。町道吉川小学校線の改良が6月に

供用開始し、緊急車両の円滑な通行が可能となりました。また、新町住宅団地については、6区画の造成工事が完了し、近く販売を開始します。

池田地域では、「池田食堂」の参加者が増え、住民の集う機会も増えるなど池田分館の来館者も大きく増加しました。若桜地域でも、11月に上町に地域食堂「おたがいさま食堂」が開設され、ここでは健康マージャンも楽しめます。町内初となる障がい者の相談支援事業所「ほーむ」も併設され、地域福祉の拠点としても期待されます。

今年度も「100万人のクラシックライブ」を開催しました。これは、音楽を通して人と人が緩やかにつながる社会を目指す組で、今年度は9月と10月の2回に分けて合計8公演と内容を拡充しました。池田食堂やドリーミーの介護現場などの小さな集まりから、こども園や若桜学園、若桜鉄道の駅舎や貸切列車など様々なシーンで、町民の皆さんに生のクラシック音楽をお届けすることができました。ふるさと納税を原資としています。

12月には、友好交流協定を締結している台湾新竹県横山郷の小学校との交流事業に、若桜学園の

5・6年生を派遣しました。海外渡航は初めてという児童も多い中、交流先の小学生との交流を深め、台湾の社会や文化を肌で感じてもらえたものと思います。豊かな国際感覚を育んでほしいと願います。また部活動の地域展開については、外部指導者が加わっての指導も始まり、部活動を地域ぐるみで支える仕組みが動き出しました。

今年は丙午（ひのえうま）の年です。力強く前向きで活気のあふれる年になるとされ、事業の発展や努力が実を結ぶ年とも言われています。若桜町の飛躍と町民の皆様のご安寧を願い、新年のごあいさついたします。



▲地域食堂「おたがいさま食堂」(上町)



▲100万人のクラシックライブ(若桜駅舎)